

この夏まちは鯨で熱い

7月7日(土)・8日(日)の両日、市内を会場に「全国・鯨フォーラム2007」が開催されます。これは、捕鯨に関係する全国26の自治体で組織する「捕鯨を守る全国自治体連絡協議会」が、初めて実施するものです。

捕鯨・鯨食は文化

鯨は、人類と共に生きて来ています。日本においても縄文時代・弥生時代の遺跡から鯨の骨が出土し、昔から食用にされて来たことがわかっています。

江戸時代には、人力(網と鉚)による古式捕鯨が行われ、石巻地域でも紀州和歌山県から来た人々が、17世紀には捕鯨を行ってきたことが、古文書に記されています。

明治になり、近代捕鯨が、日本に導入されると、鮎川は、日本における有数の捕鯨の町となりました。

近代捕鯨の導入以降、鯨は日本の食文化に深く根を下ろし、日本人のタンパク源として広く普及しました。



▲ナガス鯨陸揚げ(昭和37年頃)

鯨は持続的利用が可能な資源

北西太平洋およびオホーツク海には、現在2万5千頭ほどのミンク鯨が、生息していると推定されています。

このような個体数推定値をもとに一定の数の鯨を捕獲し、また、継続的に個体

数推定値を見直して、捕獲数を調節するやり方を改定管理方式といます。このように監視と捕獲域のフィードバックを行えば、不確実な生態系を持続的に利用することができそうです。

北西太平洋(石巻付近の海)における沿岸小型捕鯨は、こうした方式をとれば、持続的に存続が可能であると考えられています。

沿岸小型捕鯨は効率的食糧生産

鮎川などで行われていた沿岸小型捕鯨は、陸に近い場所でも鯨を捕獲し、地元で消費するというたいへん効率がいい、ま



▲今年の調査捕鯨で捕獲されたミンク鯨の水揚げ

さに地産地消そのものであり、自然の摂理に従った食糧生産です。このように捕鯨は持続可能な食糧生産であり文化です。そのため、私たちは、鯨や捕鯨についてよく知るとともに、広報をして行く必要があります。

鯨フォーラムに参加しよう

7月7日(土)・8日(日)、石巻市を会場として、全国・鯨フォーラム2007が開催されます。

海・山・里それぞれに全国へ誇れる「食材の宝庫」・石巻を、「食彩・感動いしのまき」のキャッチフレーズで全国へPRするため、楽しいイベント盛りだくさんで開催します。ご家族やご友人お誘いあわせの上、ぜひお出でください。

■主な内容■

- A会場 おしかホエールランド(鮎川)
7月7日(土) 午前9時30分〜午後3時30分
- 【ホエールランド広場・牡鹿市場】
オープニング
(寄磯子供大黒舞、寄磯ソーラン)
とっておきの金華山いちば
(地場産品の即売)
- ミニ捕鯨砲アトラクション
- 鯨肉頒布会
- 鮎川「KIDS」アトラクション
- ツチ鯨キャンペーン(試食と即売)
- 金華山蛇踊り
- 沿岸小型捕鯨タウンミーティング

捕鯨船実砲実演



餅まき&プレゼント抽選会

【海岸広場】

本場鮎川のミンク鯨料理

【ホエールランド館内】

鯨歯工芸品の実演

鮎川近代捕鯨百年の映像体験

7月8日(日) 午前10時〜午後1時30分

【ホエールランド広場・牡鹿市場】

とつておきの金華山いちば

(地場産品の即売)

ミニ捕鯨アトラクション

鯨肉頒布会

ツチ鯨キャンペーン(試食と即売)

B会場 ビッグバン(成田)

7月7日(土) 午前9時〜午後4時30分

【屋外】

「みんな集まれ」ビンゴゲーム

石巻・特産品マーケット

市民フリーマーケット

鯨肉特別頒布会

ブルーインパルスJr. 展示走行

ジャンボ鯨絵燈籠点灯(日中常時展示)

【アリーナ】

クジラ博士の出張授業(親子参加事業)

市民ステージアトラクション

【集いの部屋】

学校給食メニュー試食会

【文化交流ホール】

「食」を語る女性のトーク(午後1時30分〜3時)

吉川 美代子氏(GBSアナウンス局長)

島村 菜津氏(ノンフィクション作家)

増子 裕子氏

(前石巻市立飯野川第一小学校長)

江刺 みゆき氏

(石巻地区漁業協同組合女性部長)

戸澤 由理氏

(石巻市立飯野川第一小学校PTA代表)

7月8日(日) 午前9時〜午後3時

【文化交流ホール】

開演七レモ二一

全国捕鯨自治体首長会議

捕鯨と石巻の関わりパネルディスカッション(午前11時〜午後0時30分)

森下 丈二氏

(水産庁資源管理部漁業交渉官)

菅原 文太氏(俳優)

加藤 秀弘氏

(東京海洋大学海洋学部教授)

木村 稔氏

(宮城県漁業協同組合連合会代表理事会長)

千田 美恵子氏

(クジラ料理を伝える会 鯨料理専門家)

土井 喜美夫(石巻市長)

第59回 IWC アンカレッジ会議へ出席して

石巻市長 土井喜美夫



IWC国際捕鯨委員会年次会合において、沿岸小型捕鯨関係自治体を代表して、我が国沿岸小型捕鯨に対する「捕獲枠」の要求にかかるスピーチを、英語という共通語で通訳を介さず、実情と要望を切実に訴える思いで行いました。

スピーチが終わると、会場から盛大な拍手をもらうことができ、沿岸小型捕鯨の再開を求める石巻市の声を、IWCに、正しく伝えることができたものと理解しています。この提案に対するディスカッションでは、捕鯨支持国はもとより、反捕鯨国の一部からも私のコメントに理解を示す発言がありました。

しかしながら、結果としましては「町の窮状(きゅうじょう)は十分理解できたけれども、沿岸小型捕鯨は商業捕鯨であるから支持できない。」などという排他的な考え方の、一方的な価値観の押し付けを繰り返し、あるいは都合のよいところだけ「科学優先」を持ち出すなど、資源管理機関としての合意形成はどんなに時間をかけようとも、難しいだろうと感じました。

まさに、機能不全に陥った今のIWCですけれども、ついに日本政府は「脱退」の可能性にも言及したと報じられていまして、長年にわたって我慢を強いられてきた本市の沿岸小型捕鯨は、これから新たな局面を迎えると思われまます。

窮地(きゅうち)に立つ沿岸小型捕鯨の一日も早い再開を目指す本市としましては、7月の全国・鯨フォーラムをぜひとも成功させ、国と共同歩調をとりながらも、積極的かつ効果的な取り組みを展開していかなければならないと考えています。

【集いの部屋】

石巻の味フェスティバル

【アリーナ】

抽選番号入り餅まき

【屋外】

石巻・特産品マーケット

市民フリーマーケット

鯨肉特別頒布会

法印神楽演舞

鯨フォーラム2007石巻実行委

員会事務局(水産課) ☎95-11111